



# べっ子の共育

～学校だより・つなぐ5月号 巻頭言として～

令和6年5月1日（水）

発行：摂津市立別府小学校

校長 田中健一郎

新年度が始まって一か月。これまでとの変化を感じています。それは、子どもたちの遅刻が減ったこと。

他の教職員とともに、私も児童玄関前で毎朝登校してくる子どもたちを迎えているのですが、昨年度と比べても8時40分の始業のチャイムが鳴るまでに下駄箱を通過する子が増えました。こんなこと書くと、当たり前のことじゃないかと言われるのですが、それくらい当たり前じゃないくらい昨年度までは遅刻してくる子が多かったのです。その数がこの4月には随分と減っている実感があります。それでも遅刻の子はまだまだ結構いますけどね。

遅刻してくる子どもたちを見ていると、低学年の子どもたちが集団で遅れてくるパターン。これはおそらく家からの距離が遠いために、そして時間の感覚がまだおぼつかないためにペースがつかめずに結果遅れてしまうのだろう。始業ギリギリに保護者に自転車や車で送ってもらうパターン。おそらく寝坊や朝の準備が遅くなったのだろう。夜は早くに寝ることができているのだろうか？または、始業の時間に遅れていることはわかっているはずなのに、悪びれることなく堂々と遅刻してくるパターン。これはもう遅刻している自分を正当化しているな・・・などと子どもたちの姿を見ながら、遅刻の背景にもいろいろとあるのだろうと想像してしまいます。

もちろん声をかけます。「おーい、チャイム鳴ったよ。遅刻だよ。急いで。」「もう少し早く来るようにしようね。」教職員のそれぞれがいろいろな声掛けをして働きかけています。でも、遅刻は生活習慣の改善が行われないと解決しないことですから、子どもたちへの声掛けだけではなかなか解決しないとも感じています。保護者の方にお子さんの遅刻の現状を伝えて、家庭でも生活リズムの見直しを言って聞かせて手伝ってもらわないと、おそらく変わらないことでもあります。

「遅刻しないようにね。」と声を掛けながら、そもそも遅刻がなぜいけないのかと子どもたちはわかっているのだろうか？と根本的なことを考えたりもします。さらには、果たして遅刻はいけないものなのだろうか？とすることさえも考えます。

大人ならわかるんですね。私で例えたとしたら、朝8時30分からは勤務時間になりますし、そこには仕事としての報酬が発生します。そして、もしも遅刻をすれば、自分のすべき担当の仕事に穴を開けてしまう、他の人に迷惑をかけてしまう。だから遅刻はいけないと思っています。

しかし、子どもにはこういった理由はピンとこないですね。なんとなくわかるけど、まだ働いていないのだから別に今困らない。私などは「将来困ることになるから、今から遅刻しないようにしなさい。」と、小さい頃からそのように言われて、それを疑うことなく毎日を過ごしていました。なぜ遅刻がいけないのかを自分の頭で考えることなく大人になってしまったようにも思います。遅刻をすることで先生や親と言った大人に叱られることが怖かったからと言うことも理由だったと思います。ですが、今の子どもたちに伝える理由としては将来困るからだけでは説得力がないようにも思います。

保護者の皆さん、大人の皆さんでしたら、どのように子どもたちに伝えるでしょうか？

何人かの先生に聞いてみました。「そうですね。決められた時間に教室に揃っていないと、どうしたのかなと安否が気になり心配します。だから遅刻はダメなのではないでしょうか。」なるほど、相手に心配をかけさせないようにするためにも遅刻をするべきではない。

「学校ではその時間にみんなが集合することが前提として授業を始めるので、遅刻をしてしまうと準備している予定を狂わせてしまう。」なるほど。やはりこれも相手のことに配慮するためにも遅刻するべきではない。

社会一般のルールとしても、遅刻をすることは、約束を守れないこと。つまり自分自身をコントロールできないこと。それが積み重なることで相手に信用されないことになってしまうともよく言われます。

また、時間とはつまり、限りある人の命の一瞬一瞬を切り取ったもの。遅刻をすることで大切な相手の命の時間を奪っている行動だと言われることもあります。

確かに、私もこの年齢になってつくづく感じることは、時間には限りがあること。そして、全ての人にとってもその事実は同じということです。若い頃には時間なんていくらでもある、永遠に続くような錯覚さえ感じましたが、今は1日、24時間がとても短く感じられます。「時は金なり」まさにその通りと実感します。

時間は全ての人にとって大切。私にとってもあなたにとっても。そのことを表す行動が時間を守ること。遅刻をしないこと。少し抽象的でぼんやりはしてしまいましたが、遅刻をしない理由を伝えるとすれば、私はそのように子どもたちに伝えるでしょうか。

しかし、なぜ、この4月遅刻は減ったのでしょうか？新しい学年、新しい生活環境に対する前向きなやる気もあるでしょうし、行動を変えたいという気持ちの表れなのかもしれません。お家で保護者の方が声を掛けてくれているからなのかもしれませんし、やっぱり大人に叱られることがイヤでしぶしぶ行動を変えているのかもしれません。正直分かりません。まあ、遅刻しないことが当たり前と言われることですから、「正常」に戻っただけと捉えるのが「普通」なのかもしれませんが。

ですが、ふだん当たり前と思っていることについて、あらためてなぜなのだろう？と考える機会を持つことは、より自分の人生を主体的に生きることにもつながるのではないかと、とも思う今日この頃です。「社会一般にダメと言われるから遅刻をしません」よりも、「私は自分も他人も大切にしたいから遅刻はしないようにしています」の方が自分で自分の生き方を決めている、と感じませんか。別府小学校の子どもたちには、そんなふうに自ら主体的に考えられる人間になってほしいと願います。

話は変わりますが、4月の校長発信を出した後、右下のGoogleフォーム経由でとても嬉しい感想をいただきました。本当にありがとうございます。嬉しくて感動しました。あまりにも嬉しかったので、印刷して机に貼り付けていつも眺めて元気をもらっています。

また、4月の参観懇談会の保護者アンケートのご提出もありがとうございました。これまた、温かいお言葉をたくさんいただいて、嬉し過ぎて全ての感想をまとめた文書を作って教職員にも配付しました。みんなとても喜んでおりました。おまけに摂津市教育委員会の方々にも読んでいただき、喜びを共有させていただきました。本当にありがとうございました。言葉の力って大きいな一偉大だなーとあらためて実感しました。

こう書かれると、なんとなく送らんとあかんかなーとってしまいますよね。

全然そんなことはないですよ。ですが、送っていただけるのでしたら是非→

